

2023年 10月 7日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	宇都宮麻香	印	所属	空間演出デザイン学科
			職位	助手（旧助手）

研究課題	北欧独自の自然や風土に密接に結びついた生活の中で生まれた家具デザイン、建築デザインの研究
研究先機関	アアルト大学、アアルト自邸、アアルトアトリエ、イッタラガラスファクトリー 他
主な滞在地 (国・都市名)	フィンランド（ヘルシンキ）、スウェーデン（ストックホルム）
渡航日程	2023年 8月 9日 ～ 2023年 8月 16日（8日間）
研究目的・理由	<p>北欧を研修先として選んだ理由としては自身の制作テーマとの結びつきにある。</p> <p>自身の制作では光、水、風などの自然の現象や日常生活における身近な素材を研究し、そのものの価値を見出すことをテーマとしてインスタレーション、インテリアデザインの分野で作品制作を行なっている</p> <p>緯度が高く厳しい自然環境の北欧地域で生まれた、森や湖などの自然からインスピレーションを得たシンプルで美しいデザインや、季節で異なる日照時間の中で移ろいゆく光を室内空間に取り入れる優れた開口部のデザイン、長く愛用できる耐久性と高い機能性を兼ね備えた北欧デザインのインテリアや家具、建築は自身の研究のテーマに繋がり大変魅力を感じている。</p> <p>この研修ではフィンランド、スウェーデンを中心として北欧独自の自然や風土に密接に結びついた生活の中で生まれた家具デザイン、建築デザインを学ぶことを目的に北欧への研修を希望した。</p>

<p>研究成果発表予定 (展覧会、著書、 論文発表等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・助教助手展 2023 にて研究成果作品発表 (予定) ・2024 年 3 月個展にて研究成果作品発表 (予定)
<p>研究内容</p>	<p>今回の研修ではアルヴァ・アアルトのデザインを中心に北欧地域における北欧独自の自然や風土に密接に結びついた生活の中で生まれた家具デザイン、建築デザインの研究を行なった。</p> <p>アアルト大学、アルヴァ・アアルト自邸、アトリエを見学する中で強く感じたことは自然と結びついたデザインと人に優しいデザインである。森や湖などの自然からインスピレーションを得たシンプルで美しいデザインは今も変わらない普遍的でありながらも新しい美しさをまもっており、緻密な設計と丁寧なものづくりを感じる。内装の装飾は大変細やかな配慮が伺え、ドアノブ一つとっても服の袖口がノブに引っかかることのないようにドアとの隙間が調整されていた。自邸は最初のアトリエと併設になっており決して広いものではない。だが、くつろぐスペースからお手洗いが見えないよう壁が立てられていたり、当時は珍しく洗面も 2 台設置してあるのだ。人想いのデザインを大変感じられ、それらを体感できたことが大きな学びとなった。</p> <p>また北欧の内装空間全体を通して驚いたことは日本ではどの家庭にもあるシーリングライトがなく、室内にある明かりは間接照明のみであったことだ。この地域は夏の間は白夜で夜 22 時頃まで明るく、逆に冬は極夜となり 15 時頃には暗く静まりかえる。そのような地域であるからこそ、日中の光のある時間は存分に太陽の光を部屋の中へ取り込み、暗くなった時間帯は間接照明のみで室内での暮らしを豊かにしている。照明デザインや光を取り込む建築デザインが発展した背景に納得する。例えばアルヴァ・アアルトのデザインであるアカデミア図書館では本を開いたようなユニークな天窗があり、季節で異なる日照時間の中で移ろいゆく光を室内空間に取り入れる優れたデザインで光そのものをデザインしているのだと感じた。また、室内での暮らしを豊かにするものとしてマリメッコやフィンレンソンなどのテキスタイルブランドも発展した。冬の極夜で暗い時間を多く過ごすため室内のカーテンやカーペットなど部屋の大きな面積を占めるものを明るいテキスタイルでまとめることが主流だそうだ。日本では派手に思われる方が多い大胆な柄の洋服もフィンランドの方は普段使いで使用していたことも印象的であった。イッタラ、アラビアの食器やアルテックのプロダクトなどもフィンランド人によると日常使いだと言う。それらのプロダクトや洋服は日本人の感覚だと少々高級品と感じられるもののであるのだが、それらを普段の生活に取り入れているという北欧デザインのインテリアや家具が持つ長く愛用できる耐久性と高い機能性を感じられた。</p> <p>今回の北欧への研修を通し得られた学びから光、水、風などの自然の現象や日常生活における身近な素材を研究し、自身の制作分野である空間インスタレーション、インテリアデザインでの作品制作に活かしていくと共に美術大学における空間作品制作における学生へのサポートの強化に邁進していく所存である。</p>

大学授業における 研究成果の還元	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科内講義にて研究内容/成果発表 ・ 自然を媒体とした空間作品制作におけるサポートの強化
---------------------	---

研究日程（全滞在期間）

出発日 (現地時間)	出発地 (国・都市名)	到着日 (現地時間)	到着地 (国・都市名)	研究内容等	滞在 日数
8/9	日本 東京	8/10	フィンランド ヘルシンキ	移動日	1
		8/10		イッタラガラスファクトリー、タンペレ大聖堂 他	1
		8/11		アアルト大学視察 他	1
		8/12		アアルト自邸、アトリエ視察 他	1
8/13	フィンランド ヘルシンキ	8/14	スウェーデン ストックホルム	ヘルシンキ地区探索、移動日	1
		8/14		市庁舎視察、旧市街地ガラムスタン地区探索	1
8/15	スウェーデン ストックホルム	8/16	日本 東京	移動日	2

以上

- ※ 欄が不足する場合は、適宜、行を挿入するなどして記入してください。別紙添付も可。
- ※ その他特記事項等がある場合は、備考欄に記入してください。







